

9月27日 第30回記念千代田平和集会在開かれる

『戦争の準備は何をもたらすのか 煽られる台湾有事と「平和の準備」』と題して

フリージャーナリストの布施祐仁さんが講演

今年で30回目となる千代田平和集会在9月27日、千代田区のエデュカス東京で開催されました。

これまでの29回は、日本の平和と憲法を守ろうと、その時々的情勢に合わせて、集会を重ねてきました。

参加者は、ZOOM参加も含めて81名でした。

司会を千保法之さん（東京地評青年協議長）が行いました。

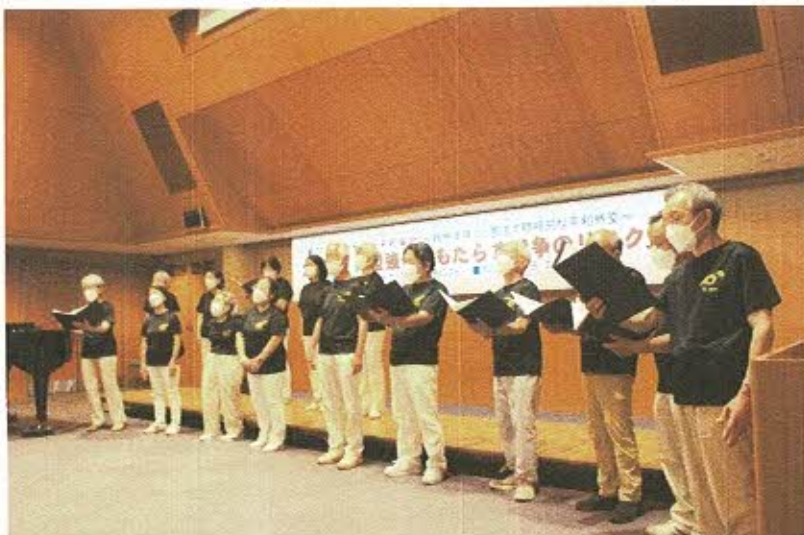
集会の冒頭、実行委員長の茂呂千代田区労協議長が、千代田平和集会の歴史にふれ、そして、岸田政権がアメリカいなりで大軍拡を進めている、一方国民生活の改善には十分な対応を行わない中、「今日の集会で戦争と平和について考えよう」、「文化行事も取り入れて平和集会を行っている。平和でなければ文化はできない」と挨拶しました。

続いて、ソレイユ合唱団が平和の歌声、①瑠璃色の地球 ②つぶてソングより 許せるか、あなたは ③つぶてソングより 重なり合う手と手 ④千羽鶴の4曲を披露しました。



冒頭挨拶する茂呂千代田区労協議長

今回の講演は、岸田政権が戦後最大の大軍拡を進め戦争の準備をしている中で、『戦争の準備は何をもたらすのか 煽られる台湾有事と「平和の準備」』と題して、フリージャーナリストの布施祐仁さんにお話してもらいました。



平和の歌声を披露するソレイユ合唱団



講演する布施祐仁さん

台湾有事を想定 米軍と自衛隊が一体化して戦う

講演では、「軍事予算が莫大に増やされている。来年度概算要求は、7.7兆円。5年間で使う43兆円では収まらなくなっている」、「台湾有事を想定し、日米で戦うために、日米共同作戦計画が進められている。これは、専守防衛政策を捨て、日米軍事同盟の強化で米軍と自衛隊の一体化が図られている。そして、作戦の指揮は米軍が執る。米軍の下請けに自衛隊がなるということだ」、「南西諸島への自衛隊の配備と基地をつくる、敵基地攻撃能力の保有・長射程ミサイルの配備など、大軍拡が着々と進められている」と指摘。中国も脅威を感じて戦争になる危険が高まるといいます。

こうした中で、アメリカのシンクタンク「CSIS（戦略国際問題研究所）」のシミュレーションによれば、「いったん衝突が起これば、日本はアメリカとともに戦うことになり、日本への甚大な被害は避けられない」「（嘉手納基地の）滑走路の両脇には日米の機体の残骸が並び、軍の病院に収容された負傷者は数百人に上り、多数の死者に対応するため仮設墓地も作られているだろう」と報告されているといえます。それには、民間人の被害は書かれていないが、多く出ることは間違いないといえます。

布施さんは、9月上旬に、石垣島に取材に行き、住民は、「もし戦争が起きたら巻き添えを食うのは明らか、基地は真っ先に攻撃される。自分たちは『捨て石』にされるのではないかと不安を募らせている、先のアメリカとの戦争で沖縄が『捨て石』にされたことの歴史が想起されるといいます。



布施祐仁さんの講演に聞き入る参加者

また、「南西諸島だけが戦場になるのではない。米軍基地、自衛隊基地は日本全土にあるので、中国はミサイルで攻撃する。だから、日本は、自衛隊基地を戦争仕様にする、強靱化することに莫大な予算をかけようとしている」といいます。

ところが、中国のミサイル攻撃を回避するため、在日米空軍・海軍の主力は一旦日本から脱出し、中国の脅威圏外に退避するといっています。自衛隊に最前線で戦わせることだそうです。

一方で、布施さんは、「台湾有事が煽られているが、アメリカ、中国共に戦争は望んでいない、経済的にもお互いの利益にならないので、台湾有事は起きる可能性は低い」とみているといっています。

本当の戦争のリスク 緊張高まれば意図せぬ衝突が起こる危険が高まる

ただ、本当の戦争のリスクは、別なところにあるといっています。「軍拡競争で緊張が高まれば、意図せぬ衝突が起こる危険が高まる」と第1次世界大戦に至る過程を紹介しました。

それでは、戦争を防ぐにはどうしたらよいかということについては、インドネシアのルトノ外相の2022年9月26日の国連総会での演説を紹介。

「第二次世界大戦に至るまでに経験した大恐慌、超国家主義の台頭、資源をめぐる競争、大国間の競争。これらは、今日私たちが直面しているものと非常によく似ています。このまま同じ道を進んでいくと、破滅へと向かってしまいます」、「インドネシアは新しいパラダイムに基づく世界を提案したい。ゼロサム（ゼロか100）ではなくウィンウィン、競争ではなく協力、封じ込めではなく包摂のパラダイムです。信頼関係の欠如は憎悪と恐怖を生み、紛争を引き起こす。信頼の欠如を戦略的信頼に変えなければならない」

この内容は、「ASEAN独自のインド太平洋構想に生かされている、戦争にしないために、紛争を外交で防いできたのがASEANである」といいます。

そして、今、日本がアメリカと共に進もうとしている日米同盟強化は戦争への道だとして、「戦争を防ぐことが今重要。日本は、アメリカに追隨して大軍拡・日米同盟を強化し、抑止力に頼ることではない。平和憲法を活かし、ASEANと力を合わせ、外交によってアメリカと中国の緊張緩和を図り、戦争を予防する方向に進むことが求められる」と訴えられました。

今、日本が戦後最大の大軍拡に進むという情勢の中で、人類史上唯一の戦争被爆国である日本を再び戦場にさせないために、何をすればよいかわかる講演で、私たちの運動を勇気づけるものでした。

次ページの平和集会アピールを採択し、集会を終えました。(千代田区労協事務局長 小林秀治)

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。

*千代田区労協通信バックナンバー/http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

以下、平和集会アピールです。

第30回記念千代田平和集会アピール

岸田内閣が昨年12月に閣議決定した「安保関連3文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）」は、中国を想定して米軍と共同で「対処」することをうたい、従来認めてこなかった『敵基地攻撃能力』の保有を掲げています。軍事費について5年間で43兆円、27年度にはGDP比で2%と現在の2倍（＝世界第3位の軍事大国）にするとしています。

具体的に戦争の準備が始まっています。①戦争に備えて基地を地下に隠す「強靱化」②南西諸島での自衛隊増強、ミサイル配備③「防衛装備移転三原則」の見直しで「殺傷能力のある」武器輸出の解禁、などです。

8月に行われた日米韓首脳会談で、“軍事同盟の結びつきを強化し、インド太平洋さらには地球規模での3カ国の軍事協力を「前例のないレベル」に引き上げる”ことを打ち出しました。自民党の麻生太郎副総裁は台湾での講演で、「たたかう覚悟」を示すことが必要だと煽りました。

大軍拡を進めれば、周辺国に脅威をあたえ、軍拡競争がエスカレートし戦争のリスクが高まります。同時に、軍事費捻出のため、消費税などの増税や社会保障費や教育費などの大幅削減につながり、国民の暮らしが押しつぶされます。

戦後最悪の第211国会で「安保関連3文書」が既成事実化され、GX推進関連法、マイナンバー改悪法、入管法改悪法、LGBT「理解増進」法、軍需産業支援法、軍拡財源法などなど稀代の悪法が量産されました。憲法審査会では、緊急事態条項改憲などの議論が重ねられ、明文改憲の動きが進みました。

ロシアのウクライナ侵略から1年7か月が過ぎましたが戦争終結の見通しは全く立っておりません。改めて、ロシアに侵略戦争やめよ、ウクライナから即時、無条件に撤退せよと強く求めます。

私たちがここから汲むべき教訓は、軍事力・軍事ブロックの強化は戦争抑止にはならない、かえって衝突のリスクを高める、一度戦争になったら止めるのは難しい、だから絶対に戦争を起こしてはならないということです。

今、必要なのは、インド太平洋地域を分断し、軍事対軍事、核対核の危険な悪循環をつくりだすアメリカ中心の軍事的枠組みづくりではありません。あらゆる紛争を話し合いで解決し、紛争を戦争にしない、というASEANの行動に学んで、平和的に共存する道を追求する外交努力に徹することです。

千代田平和集会第30回記念の集いにあたり、私たちは、中央省庁、大企業の本社、出版社、大学、学園などが多く集まる千代田区で「平和と進歩」のたたかいの一翼を担い、運動を続けて来たことに誇りと確信をもち、「日本を新しい戦前にさせない」ために、大軍拡を許さず、憲法9条を生かした外交で東アジアに平和をつくる政治への転換を求める国民的な運動を強めることを決意します。世論と運動を広げ、わたしたちのたたかいで民主勢力の前進の展望を開いて行きましょう。

2023年9月27日 第30回記念 千代田平和集会